

(11) 地場製品の高付加価値化の開発研究 (抄録)

① CAD、CG等のデザイン支援機器の応用研究

企画・デザイン部 坂下 仁志
安田 直美

近年、製品開発におけるデザイン作業の高度化、効率化を図る機器としてCAD、CG等のコンピュータ支援のデザインシステムの積極的な導入・活用が進んでいることから、当所においても先端的なデザイン作業支援機器を導入し、その機能を生かした造形表現や各種のシュミレーションについて応用研究を進めていくとともに、それらの機器の開放を通して、地場産業の支援、デザイン機器の普及を図っていく。また、デザイン作業の重要な表現・コミュニケーション・評価手段である、各段階におけるプレゼンテーションでは、シルクスクリーン印刷の活用や製品試作的なモデリングが行われるが、こうした作業の支援機器、素材についてもあわせて活用研究を進めていく。

具体的には、

- ①かかわる領域が巨大化したデザインについて、模式的な作業概念図に整理するとともにデザインのワークプロセスをフロー図にまとめる等のデザインの専門分野、作業プロセス、作業内容とCAD、CGとの関係の整理。
- ②3次元CGシステムを用いて、ケーススタディとして「船体形状」の作成、シートカッティングマシンを用いて文字、横断・懸垂膜の作成等、当所の導入機器における、作図・作画等のプレゼンテーション機能の確認。
- ③シルクスクリーン印刷のための製版工程におけるCAD、CGの支援機能の確認。
- ④モデリング(スケールモデルの試作)機器の機能確認。

② インダストリアルデザインの導入と研究指導 —生理人類学的思考からのデザインプロセスの再構築—

企画・デザイン部 豊田 修身
兵頭 敬一郎

本研究では県内の地場産業における製品製造業に対して今後、デザインを導入する際の視点や理念の構築の一助となることを目的として、インダストリアルデザインの一般的なデザインプロセスの中で、ヒトへの最適化に焦点を当てて、そこに新しい評価軸となる、チェックや調査、あるいは試作等の作業プロセスを導入することによってデザインプロセスを新たに構築、提案することを

目指した。

デザインも、ものづくりも原点に立ち返って理念やプロセスを見直すことにより、真に人にやさしいものは何なのかが見えてくる。人類が手を使ってモノを作り始めた時、当然、自分で使うものを作ったであろうから、自分の手や足等の体に合わせながら形にしていっていったと考えられる。それを現代のものづくりの中に当てはめれば自

分への『誂え』づくりであり、自分の体の寸法や好み、場合によっては癖までも考慮したものは自分にやさしいものになってくる。そうして培った経験や使った体験を原点にもつくりを進めてきた時代は、ものづくりそのものの中に「人にやさしいもの」という考えが含まれていたし、産業革命による技術革新の中で生まれたデザインが掲げた命題も、「技術は人のために」であり、計画

や造形を通して「技術を人に近づける」ことがデザイナーの使命であった。このような観点から、現代文明に生きる人間を対象として「ヒト」を生物誕生からの時間軸の中で研究し、現代人の生活の道具や空間が人間の特性に基づいて構築されるべきと考える生理人類学的な立場を取り入れたデザインについての研究を進めている。

③ デザイン情報発信基地としての機能強化研究

企画・デザイン部 兵 頭 敬一郎
豊 田 修 身

平成6年度に発足して当初のデザイン部門は、デザインを経営戦略の重要な要素として位置づけ、県内産業全般を対象にデザインレベルの向上のための研究・支援を行っている。中でもデザインの導入による企業の自社製品開発力強化の為には情報が重要な役割を担っている。今日、様々なデータベース構築が各地各所で取り組まれており、より有効な情報の合理的な整備のあり方を模索する中で、全国のデザイン関連機関から発信されている情報を始め、デザイン専門図書や定期刊行物の収集・整理を行い、デザインライブラリーとしての機能を充実させるとともに、情報発信基地としてデザイン情報の発信を行うことを目的とする。

具体的には①体系的に整理された知識を得る手段として、基礎的なデザイン理論や商品知識、知的所有権等デザインに関連する図書の収集を、広い分野を網羅するよ

う進めている。②鮮度の高い情報をとということで、コンピュータ関連、トレンド情報、デザインの動向等に関する定期刊行物の収集を行う。③全国のデザイン振興団体や関係機関の実態把握を行い地域や各分野の独自性のある研究やデザイン振興策に反映させるため、デザイン関連団体情報誌の収集を行う。

また情報管理として①利用が見込まれる情報、外部の情報サービスでは入手できない情報、研究・指導において必要とする情報を収集・所蔵することにより、一般に公開すると同時に、図書に関しては、外部からの検索に応える。②情報利用のニーズが発生した時点で、外部から必要情報のみを入手する。③A4サイズ1枚のデザインペーパーとして定期的な独自の情報発信の実施等を進めている。